

経済学部 1、2、3 回生の皆さんへ（インスティテュートを除く）

経済学部

卒業要件に関わる重要なお知らせ

E-GPA3.2 基準について

経済学部を卒業するためには、所定単位数の修得のほかに、『英語ミニマム基準』のクリア（英語コースのみ）と 4 回生必修科目の『リクワイヤード経済学』の単位修得が必須要件です。このうち『リクワイヤード経済学』の単位修得については、1、2、3 回生時における専門科目の成績が大きく関わってくるので、インスティテュートを除く 1、2、3 回生の皆さんは以下の説明を十分理解して、学習計画を立ててください。

『リクワイヤード経済学（経済学復習講義）』を受講するためには、3 回生終了時まで E-GPA が 3.2 以上あることが必要です。E-GPA とは、経済学部専門科目の成績上位 30 単位の平均値を次の計算式で算出したものです。

$$(5 \times A + \text{取得単位数} + 4 \times A \text{ 取得単位数} + 3 \times B \text{ 取得単位数} + 2 \times C \text{ 取得単位数}) \div 30$$

ただし、以下の科目の単位は E-GPA の計算式に算入しません。

演習科目（基礎演習 I/II、演習 I/II、卒業研究、プロジェクト研究、

Economics（外国語専門ゼミナール I/II）、国内調査演習）

海外教育プログラム

成績評価が「P」評価および「N」評価の科目

E-GPA3.2 基準をクリアするために必要な評価の構成例を表にまとめましたので、これを参考に学習計画を立てて、3 回生終了時まで基準をクリアすることを目指してください。なお、新 3 回生の皆さんにお渡しした成績通知表には、現時点での E-GPA が掲載されています。

なお、E-GPA3.2 基準を満たさなかった場合には、『リクワイヤード経済学（B-ERE 対策講義）』において B-ERE を受験し 6 割以上のスコアを取得すれば、単位を修得することができます。B-ERE とは立命館大学経済学部版の経済学検定試験で、「ミクロ経済学」、「マクロ経済学」、「財政学」、「金融論」、「国際経済学」、「統計学」の各分野から出題します。

『リクワイヤード経済学』については、「履修要項」や「受講登録のしかた」も参照してください。

E-GPA3.2 基準早見表

下の表は、E-GPA3.2 をクリアするために必要な「経済学部専門科目」上位 30 単位の評価の構成例を表しています。数値は単位数です（科目数ではありません）。

A+が何単位あるかによって見る表が異なります。例えば、上位 30 単位中に A+がないならば、表 1 を参照します。もし A+が 0 単位で、A が 6 単位しかないならば、B が 24 単位以上必要です。もし A+が 0 単位で、A が 18 単位あるならば、C が 12 単位あればクリアです。

もう一つ例を挙げましょう。上位 30 単位中に A+が 4 単位あるならば、表 3 を参照します。もし A+が 4 単位で、A が 6 単位あるならば、B が 12 単位、C が 8 単位あればクリアです。

表 1. A+が 0 単位の場合

A+単位数	0	0	0	0	0	0	0
A 単位数	6	8	10	12	14	16	18
B 単位数	24	20	16	12	8	4	0
C 単位数	0	2	4	6	8	10	12

表 2. A+が 2 単位ある場合

A+単位数	2	2	2	2	2	2	2	2
A 単位数	2	4	6	8	10	12	14	16
B 単位数	26	22	18	14	10	6	2	0
C 単位数	0	2	4	6	8	10	12	12

表 3. A+が 4 単位ある場合

A+単位数	4	4	4	4	4	4	4
A 単位数	0	2	4	6	8	10	12
B 単位数	24	20	16	12	8	4	0
C 単位数	2	4	6	8	10	12	14

表 4. A+が 6 単位ある場合

A+単位数	6	6	6	6	6	6
A 単位数	0	2	4	6	8	10
B 単位数	18	14	10	6	2	0
C 単位数	6	8	10	12	14	14

表 5. A+が 8 単位ある場合

A+単位数	8	8	8	8
A 単位数	0	2	4	6
B 単位数	12	8	4	0
C 単位数	10	12	14	16

表 6. A+が 10 単位ある場合

A+単位数	10	10	10
A 単位数	0	2	4
B 単位数	6	2	0
C 単位数	14	16	16

表 7. A+が 12 単位ある場合

A+単位数	12
A 単位数	0
B 単位数	0
C 単位数	18